

意見

「道の駅みぶ」は、とちぎわんぱく公園、みぶハイウェーパーク、壬生町おもちゃ博物館、壬生町総合公園の4施設で構成されており、総面積は実に52.4haということで、日本一の面積を誇っております。ピーク時の来訪者数は、エリア全体では360万人に及びます。壬生町では、このような魅力的なエリアである「道の駅みぶ」が、将来にわたって『地域経済の好循環及び地域社会の発展・活性化』に資することができるよう、様々な角度からの活性化策を検討・推進中です。

そのような中、わんぱく公園内でPark-PFI事業の展開を希望される事業者の方にも、「道の駅みぶ」全体の活性化のため、以下のような点にご留意頂ければと考えておりますので、意見書を提出させていただきます。

**①「道の駅みぶ」全体の回遊性を高める取り組み（施設間連携の強化）について**

壬生町では、ハイウェーパーク内にデジタルサイネージを2カ所設置し、わんぱく公園を含む「道の駅みぶ」全体の情報を発信し、高速道路等からの来訪者をわんぱく公園エリアへ誘導するような取り組みを開始しております。回遊性が高まれば、それぞれの施設の集客力アップに繋がるものと考えます。事業者の方からも、「道の駅みぶ」全体の回遊性を高める取り組み（施設間連携の強化）をご提案頂ければと考えます。

**②壬生町の地域資源を活用した「道の駅みぶ」活性化への取り組みについて**

壬生町は、「いちご王国・栃木」の中においても生産量県内第4位、さらには全国においても20位を誇っております。また、壬生町には「おもちゃのまち」という地名もありますし、「おもちゃ博物館」等もあり、「おもちゃ」と大変縁が深いまちとして知られています。壬生町では、本町を代表する「いちご」と「おもちゃ」を中心とした地域資源を活用し、「道の駅みぶ」の活性化施策を展開して参りたいと考えております。事業者の方にも、わんぱく公園が県営公園でありながら「道の駅みぶ」の中核をなす施設であるということも考慮され、「いちご」・「おもちゃ」を始めとする、壬生町ならではの地域資源を活用した取り組みもご提案頂きたいと思えます。また、本町で今後予定しております「道の駅みぶ」の一体的な活性化により『壬生町が経済的に好循環となり、地域社会の発展・活性化』となる波及を目指していることも考慮頂ければと考えます。

**③イベントの同時開催について**

「道の駅みぶ」の一体感を醸成する為にも、各施設におけるイベントの同時開催は有効な手段であると思われまます。同じ場所での開催でなくとも、それぞれの施設で同時期に同じコンセプトで開催するイベントでも良いのではないかと考えます。どのようなスタイルでのイベント開催が有効であるかご提案頂ければと思えます。

**④「道の駅みぶ」全体のPR事業の実施について**

「道の駅みぶ」全体をPRするためにも、道の駅全体での魅力（情報）発信が必要であると思われまます。従来通りの個々の施設における情報発信も必要ですが、道の駅全体の情報を統一的に発信することにより、ひいては全体的な集客力のアップに繋がるものと考えております。どのような手法が想定されるか、ご提案を頂けたらと思えます。